

7月号 柳沢プログラム

2025年7月号

柳沢プログラム



<https://kodomo-plus.co.jp/>

Copyright © 2024 こどもプラスホールディングス株式会社 All Rights Reserved.

7月の運動療育

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 【基礎】スズメさん | ▶【発展】前回り降り（ゆっくり） |
| 【基礎】平均台渡り（2台幅で広く） | ▶【発展】平均台上でカニさん歩き（2台幅） |
| 【基礎】グーパー跳び | ▶【発展】線路グーパー跳び |
| 【基礎】クマ忍者の修行（マットにて） | ▶【発展】クマ忍者の修行（平均台や巧技台） |
| 【基礎】回転大縄跳び | ▶【発展】回転大縄跳び（ポイント内で回転ジャンプ） |
| 【基礎】サルのボール掴み→投げ | ▶【発展】サルのボール掴みから逆上がり |

7月のコラム

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 運動プログラム応用アレンジ | ▶ 大小くねくね走り |
| 作業療法士による発達支援コラム | ▶ よくぶつかる・躓くのはなぜ？ |
| こどもを守る！安全対策だより | ▶ 熱中症の予防と正しい対応 |
| アクティビティ紹介 | ▶ 風船遊びで育つ発想力 |
| 職員インタビュー | ▶ ことのは4号館 言語聴覚士 A先生 |



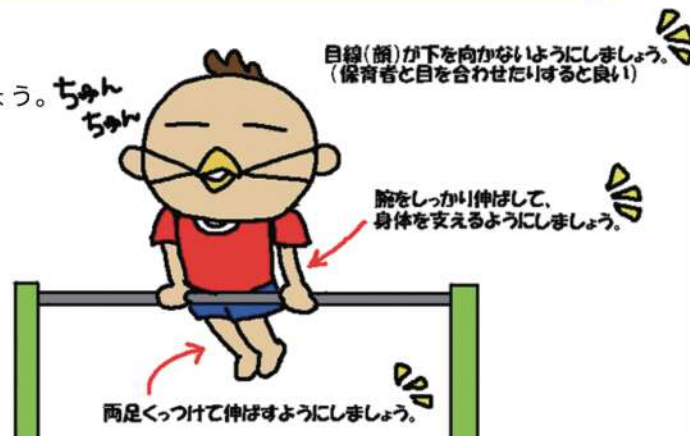
7月の運動療育

基礎編 ▶ スズメさん

1. 鉄棒でスズメに変身しましょう。
2. 鉄棒をしっかり握り、腕を伸ばして胸を張りましょう。
3. 目線は前のほうを向けて、5mほど先を見るようにしましょう。
4. 足は、両足をくっつけて伸ばすようにしましょう。

⚠ 気をつけるポイント

- 腕をしっかり伸ばして、身体を支えるようにしましょう。
- 親指をしっかりとかけて鉄棒を握るようにしましょう。猿握りにならないようにしましょう。
- 肘が曲がっているお子さんは、肘の内側に前に向くようにして伸ばしましょう。
- 両足がピンっと伸びるようにしましょう。
- 補助として大人は、お子さんの両脇に手を入れて支えましょう。
- 目線（顔）が下を向かないように、最初は大人と目を合わせたりして行いましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- ◆ 身体面：腕だけで身体を支える支持力、身体を安定させるための握力、背筋を伸ばすための腹筋・背筋の力
- ◆ 身体のコントロール：鉄棒にとび乗ったらバランスをとりながら肘を伸ばすことができる
- ◆ イメージ力：スズメさんのように足をのばして静止することができる

発展編 ▶ 前回り降り（ゆっくり）

1. 鉄棒をしっかり握ったら、ゆっくりと前回りを行いましょう。
2. まずはスズメさんに変身して、肘を伸ばしましょう。
3. 股関節が鉄棒のところに来たら、身体を丸めて前回りを行います。このとき肘は曲がっても構いません。
4. 逆さまになって一度止まり、体を丸めてから回るとスムーズに回れます。

《補助の方法》

1. お子さんと向き合う位置にしゃがみます。
2. 両手をお子さんの両脇へ入れて、回る動作に合わせて肩へ移行して身体を支えましょう。
3. 肩を支えながら回し、両腕に背中が乗るようにします。前回りですべてきたお子さんと目を合わせて、『こんにちは』と声をかけましょう。

⚠ 気をつけるポイント

- 鉄棒から手を離さないようにしましょう。
- 目線はお腹か足を見るようにして、回るようにしましょう。身体がまっすぐな状態では勢いよく回ってしまいます。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- ◆ 身体面：支持力、握力、基礎筋力
- ◆ 身体のコントロール：腕で身体を支える動き、鉄棒から手を離さない動き & 維持、前回りの動き、身体を丸める動き
- ◆ 回転感覚：前回りの回転

基礎編 ▶ 平均台渡り（2台幅で広く）

1. 平均台2台を横にくっつけて並べて設置しましょう。
2. 2台幅の上を歩いて進みましょう。
3. 手を大きく広げてバランスをとりながら進むのがポイントです。

⚠ 気をつけるポイント

- 平均台から落ちないようにしましょう。
- 慌てると足を踏み外すことがあるので、慌てずに進みましょう。
- 補助として、お子さんが大人と手を握りながら進むのも良いでしょう。
- 落下しても良いように、平均台の左右にはマットを敷きましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- ◆ 身体のコントロール：平均台上で足の指を使って踏ん張ることができる
- ◆ 高所感覚：平均台の高さに慣れ、自分の思うように動くことができる
- ◆ バランス力：下半身と上半身を使ってバランスをとれる

発展編 ▶ 平均台上でカニさん歩き（2台幅）

1. 平均台を2台並べて、その上をカニ歩きで進んでいきましょう。
2. 手はカニのようにチョキにして歩きましょう。
3. 脇を開いて、カニの手が高くなるように行いましょう。
4. 身体が前を向かないように、横向きで進むのがポイントです。

⚠ 気をつけるポイント

- 足元ばかりを見ていて身体が丸まってしまうので、背筋を伸ばして行いましょう。
- 下を向いていると、脇が締まってしまうので、腕が下がらないように行いましょう。
- ただ渡るだけではスピードの競い合いになってしまい、危険が伴います。「スピードで競うのではなく、ふらふらしないで安定して進むことが格好いいんだよ!」という目標を掲げて行いましょう。
- 慣れてきたら、踵（かかと）をつかずにつま先歩きで進んでみましょう。
- 落下した時のために平均台の左右にはマットを敷きましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- ◆ 身体のコントロール：足元に気を取られて腕が下がらないように移動することができる。目線を平均台や遠方に素早く移すことで安定して移動することができる
- ◆ 空間認知：身体が横向きになってもカニ歩きで曲がらずに進むことができる
- ◆ バランス力：足の指先に力を入れてバランスを保つことができる

7月の運動療育

基礎編 ▶ グーパー跳び

1. 手足一緒に大きくグーとパーをします。
2. グーの場合、手（腕）を胸に付けて足も両足くっつける。
3. パーの場合、手（腕）を広げて両足を開く。
4. 一定のリズムで繰り返し行ってみましょう。

！ 気をつけるポイント

- 足をグー、パーにするときは片足ずつではなく、ジャンプをしながら両足一緒にグーとパーにしましょう。
- 手（腕）は、足と同時にグー、パーにしましょう。
- グーとパーのリズムは、初めのうちはゆっくり大きく行い、慣れてきたらリズムを変えましょう。
- 口で発音しながら、「グー」「パー」と動作をしましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- ◆ 身体面：手の指先の力、足の指先の力、跳躍力を育む
- ◆ 身体のコントロール：上半身と下半身を連動させて動くことができる
- ◆ 記憶力：グーパーの動きを記憶してコントロールすることができる

発展編 ▶ 線路グーパー跳び

1. テープや縄で線路を設置しましょう。
2. 線路上で手と足を使ったグーパー跳びをして進みましょう。
3. 線路の内側がグー、線路外側がパーです。
4. 線路幅は、狭いものから、だんだんと広くしていきます。

！ 気をつけるポイント

- 手と足を大きく使ってグーパー跳びを行いましょう。
- 線路を踏まないようにしましょう。
- 線路をしっかりと見てグーパー跳びをしましょう。
- 「グー」「パー」と言いながら一定のリズムで進んでいきましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- ◆ 身体面：足のつま先でジャンプをコントロールすることができる
- ◆ 身体のコントロール：ふらつかないで姿勢を維持しながら連続でジャンプをすることができる
- ◆ 空間認知：線路を踏まないように線路の場所を認識してジャンプすることができる



基礎編 ▶ クマ忍者の修行（マットにて）

1. マット2枚を並べて、40cmほどの間隔をあけましょう。
2. クマの姿勢で進んで行き、マットからマットにジャンプをしましょう。
3. 横方向へのジャンプがスムーズにできるように、左右にジャンプをしてみましょう。
4. 慣れてきたら、マットを何枚も並べてピョンピョンと跳んでいきましょう。

！ 気をつけるポイント

- 腕を曲げないようにジャンプをしましょう。
- 顔が下を向いてしまうと安定したジャンプができませんので、顎を上げて前を見るようにしましょう。
- 最初から両脚ジャンプが難しい場合は、片足ずつジャンプをしましょう。
- 着地の時に潰れてしまわないように、しっかりと足で着地をするようにしましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- ◆ 身体面：しっかりと腕に体重を乗せても支えることができる
- ◆ 身体のコントロール：足を振り上げる際に、顔をしっかりと上げて安定したジャンプができる。慣れてきたら、足を高く上げてジャンプをすることができる
- ◆ 空間認知：着地の位置をしっかりと把握して、自分でコントロールしてジャンプをすることができる

発展編 ▶ クマ忍者の修行（平均台や巧技台）

1. 平均台や巧技台を設置して、そこを横方向にジャンプをしましょう。
2. 平均台などの高さは低いものを利用して行いましょう。
3. まずは、片足ずつまたぐようにジャンプをして慣れてきたら両脚ジャンプで行いましょう。

！ 気をつけるポイント

- 手をしっかりと平均台についてから行い、慌ててすぐにジャンプをしないようにしましょう。
- 腕をしっかりと伸ばして行いましょう。
- 顔が下を向くと腕も曲がりやすくなりますので、しっかりと顔を前に向けて行いましょう。
- 出来ない場合はひとつ前の動きである「クマ忍者の修業～マット編～」に戻っていきましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- ◆ 身体面：支持力、跳躍力、足の指先の力、基礎筋力
- ◆ 身体のコントロール：クマの姿勢、手は動かさない動き、足を振り上げる動き、下半身の連動性、上半身と下半身の力伝達と協調性、両足をくっつける動き
- ◆ 空間認知：平均台の高さと着地点を視覚で捉える

7月の運動療育

基礎編 ▶ 回転大縄跳び

1. 大縄飛びの中をお子さんが遊ぶ遊びですが、お子さんはくるくと回転しながら跳びましょう。
2. 縄を回すスピードは、ゆっくり大きく回すようにしましょう。
3. 腕を振りながらジャンプをするようにしましょう。
4. 同じポイントでジャンプができるようにしましょう。
5. 10回ぐらい回数を数えて跳んだら交代しましょう。

！ 気をつけるポイント

- 同じ位置でジャンプをしながら、回転するのが目的です。
- 一定のリズムでジャンプができない子は、腕の振りを重視するように声がけしましょう。
- 縄のほうに移動してしまうことの無いようにしましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- ◆ 跳躍力：両足をくっつけたままで連続ジャンプができる
- ◆ リズム感：一定のリズムでジャンプをし続けることができる
- ◆ 平衡感覚：ふらふらしないで、姿勢を維持しながらジャンプすることができる

発展編 ▶ 回転大縄跳び（ポイント内で回転ジャンプ）

1. 回転大縄跳びと同じですが、今回はお子さんが回転するポイントを制限しましょう。
2. 一定の枠の中にくると回転しながら縄を跳びましょう。
3. 慣れてきたら、大人が手を数回叩いて、その叩いた数だけ回転するという遊びに発展させてみましょう。動きながら音に注意を向けることで、集中力は状況判断の力がグンッと伸びます。

！ 気をつけるポイント

- 縄を早く回さないように、大人は縄のスピードをゆっくりと、しかも一定の早さで回すようにしましょう。
- ふらふらしないように、目線を高くして跳ぶようにしましょう。
- 枠からはみ出してもすぐに戻るようにしましょう。はみ出したからといって座り込んでしまうことのないようにしましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- ◆ 跳躍力：腕の振りと上半身のひねりをジャンプに合わせて行うことができる
- ◆ 空間認知：縄の位置を意識しながら、縄の回転に合わせてジャンプおよび回転をすることができる
- ◆ 集中力：動きの中で、大人が手を叩いた回数に耳を傾けることができる

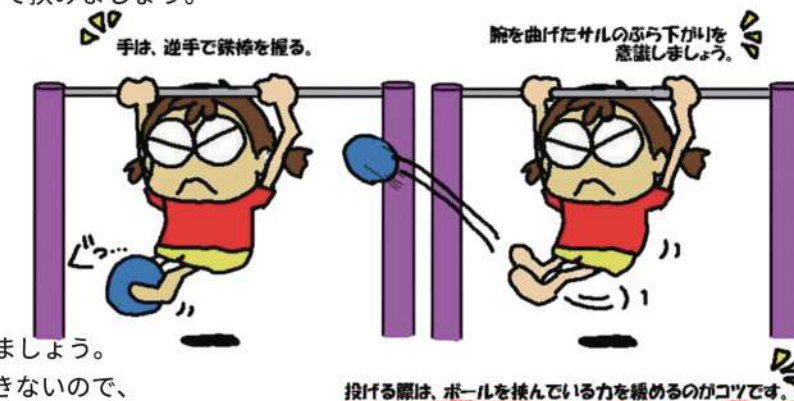


基礎編 ▶ サルのボール掴み→投げ

1. サルのぶら下がりから、鉄棒下にあるボールを両足で挟みボールを遠くまで投げる遊びです。
2. ぶら下がったら鉄棒の下にあるボールを足だけで挟みましょう。
3. 遠くまでボールを投げられるように、身体をプランコのように前後に振ってボールを投げるようにしましょう。
4. 投げる前にボールを落としてしまった場合は、もう一度チャレンジしましょう。
5. 足下にはボールを2〜3個用意しておき、自分で投げたボールを拾ってきて次の人に渡すようにしましょう。

！ 気をつけるポイント

- 鉄棒の握り方は順手でも逆手でもどちらでも構いませんが、猿握りにならないように注意しましょう。
- 腕が伸びた状態では身体を上手に使うことができないので、肘を少し曲げて行うと良いでしょう。
- ボール挟む位置は、足の指先あたりにします。くるぶしあたりで挟むと投げにくくなってしまいます。
- 投げる際にタイミング良くボールを離せるようにしましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

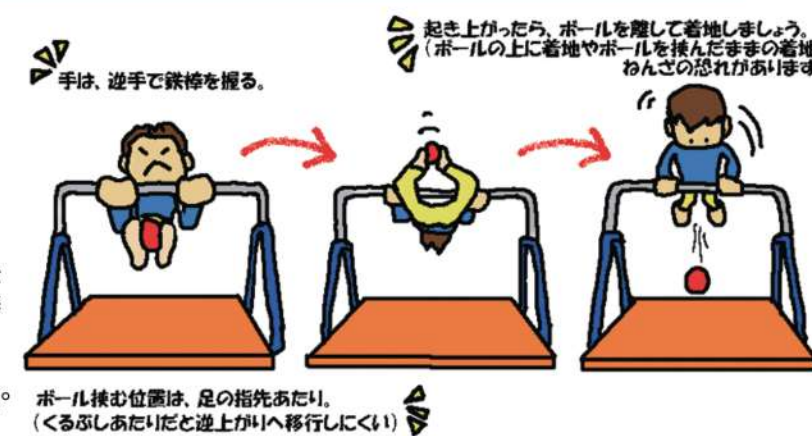
- ◆ 巧緻性：鉄棒にぶら下がった状態で、身体を振りながらボールをタイミング良く離すことができる
- ◆ 身体面：腹筋を使って足を大きく動かしてボールを前の方に投げることができる
- ◆ 懸垂力：肘を曲げて身体を前後に大きく振ることができる

発展編 ▶ サルのボール掴みから逆上がり

1. サルのぶら下がりから、ボールを両足で挟み、そのまま逆上がりへ移行する遊びです。
2. 逆上がりをした後は、スズメになって足で挟んでいるボールを後ろに投げましょう。
3. ボールを離れた後は、スズメの飛び立ちで後ろに大きくジャンプをしましょう。

！ 気をつけるポイント

- 鉄棒を握る手は逆手で握るようにしましょう。逆上がりをするときに脇が開いてしまうと力が入りません。脇を締められる逆手で握って鉄棒が身体から離れないようにしましょう。
- ボールを足で挟んだら、肘を曲げてできる限り自分の力で上に上がってみましょう。このとき足の指先を上にあげるようにイメージするのが大切です。
- 大人はお子さんたちが足を上げる位置に手をかざしてそこを見ながら行うようにしましょう。
- 自分の力だけでは逆上がりができない子が多いでしょうから、お尻や背中を押して補助をしてあげましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- ◆ 懸垂力：腕の力を使って自分の身体を持ち上げることができる
- ◆ 空間認知：ぶら下がった状態で足を上に上げることができる
- ◆ 逆さ感覚：ボールを挟んだ足を上にもっていったときに、慌てて足の力を抜かないように維持できる

運動プログラム 応用アレンジ

こどもプラス直営教室で実施している運動遊びをご紹介します。
教室で、ご家庭で、お子さんと過ごす時間にぜひ運動遊びを取り入れてみてください。

大小くねくね走り

何人で遊ぶ？

1人から遊ぶことができます。

何を使って遊ぶ？

三角コーンやマーカーコーンを使います。

どこで遊ぶ？

教室、お家の広いスペースで、ティッシュ箱やスポーツタオルなどを使って遊ぶことができます。

養われる能力



この遊びを繰り返し楽しむことで、日常生活のさまざまな力に繋がる

物の場所や向き、大きさ、姿勢、形、速さ、そして物同士の位置関係を素早く正確に認識する力が育ちます。この力は、スポーツや自転車の操作、絵を描くこと、図形や設計などにも役立ちます。

空間認知力

大小くねくね走りはバランス感覚を鍛える遊び

静止や動作中の姿勢を保ち、不安定な状態から素早く立て直す力は、「立つ」や「歩く」などの生活動作に欠かせません。また、転倒予防にも大切な力です。

バランス

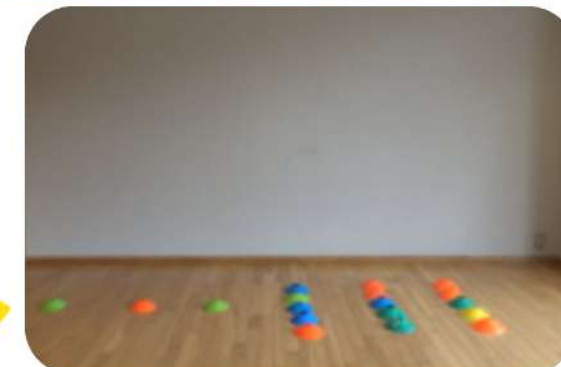
注意するポイント

- コーンを踏むと割れて足に刺さることがあるため、お子さんの技術に合わせてコーンの間隔やコースの長さを調整してから遊びましょう。
- コーンをよく見ながら走るため、広い場所で行ない、衝突の恐れがあるため壁や机などの近くで遊ぶのは避けましょう。

運動の説明

1 床にコーンを並べて、大小のくねくね道を作ります

写真のように、最初はコーン1つの小さい曲がり角、途中からコーンを増やして大きい曲がり角になるようにコースを作りましょう。



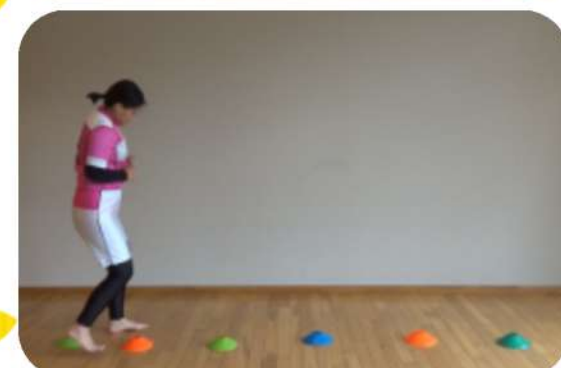
2 コーンを避けながらくねくね道に沿って最後まで走ります

コーンの並びに合わせて、最初は小さい曲がり方、途中から大きい曲がり方にステップアップしていきます。



3 【難しい場合】小さなくねくね道だけのコースを走ってみましょう

コーンを1つだけを並べた小さなくねくね道をつくり、最後まで走ってみましょう。



4 【簡単な場合のコースの作り方】くねくね道が大小、交互になるようにコースを作ります

コーンを「1つ → 5つ → 1つ → 5つ」のように交互に並んだコースを作ります。



5 【簡単な場合の走り方】大小のくねくね道を間違えずに走ってみましょう

大きなくねくね道と小さなくねくね道を、交互に間違えずに最後まで走れるか、チャレンジしてみましょう！



作業療法士による 発達支援コラム

毎月作業療法士による「こどもの心身発達と支援方法」をテーマにしたコラムを掲載いたします。

お子さんがよくぶつかる・躓くのはなぜ？

～考えられる理由と支援の工夫～

日々の療育の中で、よく壁にぶつかったり、段差のない場所で躓いたりするお子さんと出会うことはありませんか。実はそれにはいくつかの理由があり、適切な支援で改善が期待できることもあります。今回はその原因と関わり方についてご紹介します。

考えられる原因

- 注意欠如・多動症（ADHD）の特性の一つとして、不注意さや多動性により、周囲をよく見ずに動き回ってしまうことがあります。
- 発達性協調運動症（DCD）の特徴として、運動が不器用で、歩く時につま先が地面について躓いてしまうことがあります。
- 股関節や足首に硬さがあると、段差をスムーズに上がるのが難しくなることがあります。
- 足裏の感覚が鈍いと、自分の足がしっかり地面についているか分かりにくくなり、ふらつきやすくなります。
- 目の動きが少ないと、障害物や壁などに気づきにくく、ぶつかりやすくなる場合があります。
- 靴のサイズが合っていない場合も、躓いたり転びやすくなります。
- 筋肉の緊張のコントロールが難しいと、体の動きがぎこちなくなり、バランスを崩しやすくなります。
- 自分の体の位置を感じる力（ボディイメージ）が育ちきっていないと、今どこに手足があるのかわかりづらく、思った通りに体を動かすことが難しくなります。

デメリット

よくぶつかることで、まず怪我のリスクが高まります。それだけでなく、お子さんが運動に自信をなくしてしまったり、運動する機会が減ってしまうことも考えられます。また、遊びの場面で他のお子さんとぶつかることでトラブルが起きやすくなることもあります。



対応策

● トレーニング

1 カップタッチ片足クマ

- 1 クマさんの姿勢からスタートし、片足を上げた状態で進みます。
- 2 並べたカップに手でタッチしながら進みます。
- 3 顎を引いて前を見ることを意識しながら足はなるべく高く上げるようにしましょう。
- 4 2つのコースを並べて競争するなど、徐々に難易度を上げていきましょう。

2 色別ウシガエル

- 1 床に2本のビニールテープを平行に貼り、その間に「手を置く場所」として赤いテープを貼ります。
- 2 ビニールテープの外側には「足を置く場所」として青いテープを貼ります。
- 3 手 → 足 → 手 → 足の順番でジャンプして進みましょう。
- 4 慣れてきたら、赤と青のテープの位置をランダムに配置し、「赤は手、青は足」というルールを作ってみましょう。楽しみながら、見る力や判断力を育てることができます。



● 環境を調整する

✓ ヘッドギアの着用

転びやすいお子さんには、事前にヘッドギアを着用してもらい、転倒時の頭のケガを防ぎましょう。

✓ 室内の工夫

動き回るプレイルームでは、床にクッションを敷くなどの対策を行ないましょう。また、机の角には角度付きのクッションを付けるなど、転んでもケガをしにくい環境づくりが大切です。

● お子さんへの支援

- ▶ 運動が苦手なことがあるため、自信をなくしやすい傾向があります。できるだけ遊びの中で運動を楽しんでもらい、運動への興味や好きになる気持ちを育てましょう。
- ▶ 課題や勉強の前など、座っている時間が長くなると集中しづらくなる場合があります。そのような場合、動きの多い遊びで覚醒を促し、集中しやすい状態を作りましょう。動くのを止めるのが苦手な場合もあるので、動く時間と静かな時間を交互に取り入れましょう。

今回は、よく躓いたり、ぶつかってしまうお子さんについてご紹介しました。お子さんの行動には、さまざまな背景や理由があることをご理解いただき、安心して見守っていただけたらと思います。今後も、作業療法士の視点から、お子さん達の発達や関わり方について役立つ情報をお届けしてまいります。ぜひ引き続きご覧いただけますと幸いです。

参考文献

よく転ぶ、頭ばかり怪我して心配...原因や予防法は？【作業療法士・野田遥先生にきく】

<https://papamo.net/heyasuponavi/post-1012/>

こどもを守る 安全対策だより

今月号からの新コーナーです！安全対策だよりでは、お子さんの安全を守るために教室や家庭で気をつけていただきたいポイントを季節や時期に応じて不定期でお届けいたします。

☀️ 熱中症予防のポイント ☀️

屋外



- 天気の良い日は日陰の利用し、こまめに休憩しましょう
- 保冷剤、氷、冷たいタオルなどで、体を冷やしましょう
- 日傘や帽子を着用しましょう

屋内



- 扇風機やエアコンで温度をこまめに調節しましょう
- 遮光カーテン、すだれを利用しましょう

いつでも



- のどの渇きを感じていなくても、こまめに塩分・水分を補給しましょう
- 吸湿性・速乾性のある 通気性のよい衣服を着用しましょう

⚠️ 「熱中症警戒アラート」発表時には、外出をなるべく控え、暑さを避けましょう

☹️ 熱中症かな？と思ったら ☹️

涼しい場所へ



エアコンが効いている室内や風通しのよい日陰など、涼しい場所へ避難し、安静にしましょう

体を冷やす



衣服をゆるめて風通しをよくし、首のまわり、わきの下、足の付け根など太い血管が通る部分を中心に、冷たいタオルや保冷剤で体を冷やしましょう

水分＋塩分補給



経口補水液やスポーツドリンクなどで、水分と塩分を補いましょう。塩分補給には、塩分タブレットや塩飴なども効果的です

⚠️ 自力で水が飲めない、意識がない場合は、ためらわず救急車を呼びましょう

出典：「厚生労働省熱中症予防のための情報・資料サイト」
<https://x.gd/4ZrXm>

ぼくたち・わたしたちの アクティビティ紹介

風船遊びで育つ発想力

今回は、夏休みにぴったりの風船遊びを通して、お子さん達の発想力が育まれる活動をご紹介します！

風船遊びは、手や口に触れる時の触感、ふくらましたり割れたときの音による聴覚への刺激、カラフルな色による視覚的な刺激など、お子さんの感覚の発達を促すお勧めの遊びです。

感覚を刺激する遊びは、お子さんの発達過程でとても大切です。



室内での風船遊び



まずは、風船を自分で膨らませることからスタート！この作業は意外と難しく、コツが必要です。うまく膨らませることができなかったお子さんが、スムーズにできているお子さんに対してに「これも膨らませて」とお願いしている姿も見られました。

「人に頼る」「助けを求める」スキルも、成長にはとても大切です。

次に、みんなで膨らませた風船を扇風機を使って飛ばします！

扇風機を上向きにして、その風で風船を飛ばしてみました。

最初は風船1つから始まり、だんだんと数を増やして、「何個飛ばかな？」と試行錯誤する様子も見られました。風の強さや風船の大きさなど、様々な条件で風船飛ばしを楽しんでいました！



ここで大きく膨らんだ風船が登場！

「こんな大きい風船も飛ばかな？」とサイズを変えて試すなど、遊びの幅がどんどん広がっていきます。



外での水風船風遊び

私たちの教室のお子さん達は水風船が大好きです。しかし「楽しいけれど、すぐに割れてしまう」という声もありました。そこで今年お子さんたちが考えたのは、普通の風船に水を入れてみるというアイデア！普通の風船は通常の水風船よりもたっぷり水が入り、しかも丈夫です。お子さん達はプールに投げ入れたり、ぺちぺち叩いて感触を楽しんだりして大はしゃぎでした。



いろいろな大きさの水風船を作って、みんなで工夫しながら遊びました。風船ひとつでも、お子さん達は自分なりに工夫しながら、さまざまな遊びを生み出していきます。そうした遊びの中で育まれる「探究心」や「アイデアをかたちにする力」は、お子さんの主体性や考える力を育てる大切な土台となります。今後も、お子さんの「やってみたい！」という気持ちを大切にしながら、遊びの中で育まれる力を一緒に応援していけたらと思います。

職員インタビュー

2025年7月号よりこのコーナーでは全5回の予定で、「ことばの療育」を中心に支援を行っている教室の先生にインタビューした内容をお届けします！

ことのは4号館 言語聴覚士 A先生



「この道に進もう」と思ったきっかけ

元々医療職に関心があり、進路を調べていく中で「言語聴覚士」という資格があることを知りました。「話すこと」や「食べること」に困りごとを抱える方々の支援ができる仕事だと知り、とても魅力を感じ、この道を目指すことを決めました。そして、私自身が子育てをしていることもあり、こどもの発達を支える仕事により深く関わりたいという思いがありました。言語聴覚士としての専門性を活かしながら、お子さん達一人ひとりの成長を支援できる放課後等デイサービスの仕事に魅力を感じ、この仕事を選びました。

自然な遊びの中で広がる「ことば」の世界

ことのは教室には言語聴覚士(ST)、理学療法士(PT)、作業療法士(OP)が在籍しており、ことばに特化した専門的な支援を行なっています。遊びの中で言語を獲得することを目指しているため、基本的にはお子さん達は教室でそれぞれ自由に遊びながら過ごします。

その中で大人と一緒に遊び、お子さんが見ているもの、感じていることをことばにしながら関わっていきます。こうした、自然な形で言語習得を大切にし、お子さん一人ひとりの発達段階や課題に合わせて、遊びやコミュニケーションの中で自然にことばが育つように丁寧に関わっています。また、ことばの発達だけでなく、聞く力や話す力、理解力など幅広い言語機能の向上を目指し、多角的な支援を大切にしています。



支援方法に悩んだ時、先輩の導きで見つけた新たな視点

支援を行なう中で、「このお子さんにはどの方法が合っているのだろうか」と、支援方法について悩むことがあります。悩んだ時は、経験豊富な上司がいるので相談しています。構音訓練について相談した時は、上司と一緒に訓練に入って下さり、お子さんの発音が綺麗になったことがあり、とても嬉しかったです。一人で悩まず、チームで支援方法を考えていける環境があることは、働く上でとても心強いです。

心を通わせる、ことばを育む関わり方

支援の中で最も工夫しているのは、「インリアル・アプローチ」を意識した関わり方です。これは、お子さんの気持ちに寄り添い、自然な関わりの中でことばやコミュニケーションを育んでいく方法です。具体的には、お子さんの表情や動きを真似る「ミラーリング」や、お子さんが発する声や音をそのまま真似る「モニタリング」などを行ないます。また、お子さんが今何を見ているのか、何に興味を持っているのか、どんな遊びを楽しんでいるのかを常に観察しています。「この遊びだと目を見てくれる」「笑い声をあげてくれる」といった瞬間を大切にしながら、関わり方を工夫しています。

ことのは教室の魅力は多職種の連携

ことのは教室の魅力は、専門職の職員が多数在籍しており、それぞれが持つ専門的な視点からお子さんの発達を多角的に支援できる点です。日々の支援では、ことばの発達だけでなく、運動や感覚、日常生活動作など、さまざまな側面からお子さんの成長を丁寧に見守り、記録し、チームで共有しながら支援を進めています。また、終礼の時間に職員間で日々の困りごとや気づきを共有しています。専門の職員がそれぞれの視点から意見を出し合い、支援方法について話し合う場を設けています。ことばの療育だけでなく、社会性や運動面での課題についても議題に上げ、職員全員で連携しながらお子さんの成長をサポートしています。複数の専門職が連携し合うことで、お子さん一人ひとりに合わせた、よりきめ細やかなサポートが可能となっている点が、ことのは教室ならではの大きな魅力です。



お子さんの成長を共に感じ、喜びを分かち合う

お子さんの成長を保護者の方と一緒に見守り、喜び合える瞬間はとてもやりがいを感じます。教室での支援を通して、「こんなことばが出るようになりました」「家でも〇〇ができるようになりました」といったお話を聞けると、とても嬉しくなります。特に、保育園や学校、ご家庭といった教室以外の場面でも支援の成果が活かされていると感じた時には、大きな達成感があります。

心に残る成長の瞬間

小学校に入学したお子さんが、新学期にランドセルを背負って教室に来てくれた姿を見た時、「大きくなったな」と、これまでの成長をしみじみと感じました。また、ことばをなかなか発することができなかったお子さんが、ことばを初めて発してくれた瞬間に立ち会えた時はとても感動しました。

